

第10回地域連携手帳委員会議事録

日時 平成25年10月24日（木）13時30分～
会場 新津医療センター病院 大会議室

1 地域連携手帳の現状と問題点

- ・地域包括センターの集まりで3つの問題が上がった。
 - ① 基本情報は家族が記載することになるがケアマネが書く場合も有る。
原則を決めてほしい。
 - A 原則は家族だが掛けない場合はケアマネが記載することとする。
 - ② 新規事業所ができた時、手帳の存在から運用までどのように周知するか。
 - A 事業所の設立は行政が一番早く把握する。行政に関わってもらうこととする。
 - ③ 新書式になった場合、手帳委員からケアマネに周知してもらいたい。
 - A メールにより各事業書に新規様式に変わった旨を伝達することが良い。
メイリングリストの作成を急ぐ。

2 手帳の発展的な利用法

- ・栄養については新津医療センター病院を手始めとし実施していきたい。
- ・認知症については発展的要素がありかつ重大なものとして認識。
早期診断が大切ということから介護施設の情報も極めて重要である。
今後は手帳を利用した認知症連携が必要
新潟市医師会在宅医療講座が11月13日に開催され、認知症地域連携情報共有ツールが紹介される。この動向を見ながら検討していきたい。

3 秋葉区福祉連携フェアの開催

- ・主催はNPO法人リビングウィル
介護サービスについてどこに相談したら良いかわからない人のためにフェアを開催する。日時会場は以下のとおり。
平成26年3月8日（土）新津地域交流センター
手帳委員会としても展示などで参加したい。

その他

- ①新潟市江南区で地域連携
新津地域の手帳を持ち込むということはどうか。
委員の意見
手帳が広い範囲で共通様式で動くのは有効ではないか。
隣接地域ではそれぞれの地域のサービス事業所を利用することもある。
結論
同一様式でも可とするが、江南区の事務局で管理することを条件とする。

②手帳の電子化

より効率よく情報の共有を図りたいということで電子化についての考えはないのか。

委員の意見

・大規模な普及、手軽さなどで今の手帳が生まれた。多くの事業所で端末操作で情報伝達はできるか。

狭い地域で医療的にせっぱ詰まった環境であれば可能だが・・・。

今のところ困難。

③次回の手帳委員会

次回 12月19日(木) 13時30分

会場 新津医療センター病院 会議室にて開催

以上